

平成28年度自己評価結果公表シート

作成 川口聖マリア幼稚園

1、 本園の教育目標

情操豊かにたくましく
他人を思いやる心を育成することを目標とする

2、 評価項目の達成及び取組状況

保護者と幼児の共通理解を図れるよう、懇談や意見交換の場を設け保育内容の向上をはかる。
子どもの発達に合わせ力を発揮できる環境を考え、充実した活動ができるよう援助方法などを考える。。

3、本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目	取組状況
保育計画の評価・反省について、次の保育に生かせるよう取り組む	毎日の保育を振り返り、評価・反省点をあげると共に他の保育者の意見を取り入れ、見直しをし、保育の向上に努める。
子どもの成長に応じ主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活ができるようにする	個々の活動からグループ活動へと友達との関わりややり取りの楽しさを知らせる。
身近な生き物や自然に興味を持った り、体験のできる環境を整え、子どもと関わる	季節の変化に気付けるよう声を掛け、種まき・水やりなどで植物の命を感じられるようにしている。
幼児理解のため、保護者と話し合う機会を持つ	日々の出来事や気になることを伝え、家庭での様子を聞く機会を作る。必要に応じて個人的に懇談をし、家庭での協力を求める。

4、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度も懇談など保護者との話し合いを持つことで、多くの場合子どもの理解が深まり、有意義な保育へのつながりとなった。子どもの発達が全体的にゆっくりになっていることを考慮し、計画や展開を考えていくのが、今後の課題となる。

子どもの自主的な活動を促すための援助や方法、子どもへの関わり方などを考慮する必要がある。

5、 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	前年度を基に園を取り巻く環境や、気になる子ども、特別支援教育といった子どもの実態に即した個別指導計画の編成に取り組んでいく。
子どもの成長に即した計画・展開	異年齢の関わりなども増やし、小さい子の面倒を見るなどして、年上としての自覚を持って活動する場面なども展開する。
子どもの共通理解	学年を超えて子どもの共通理解をすることで、子どもの発達や、必要な援助などを考えていく

6、 学校関係者の評価

・概ね日々の努力は認められ特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7、 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。